

令和3年度 市民意識調査の結果概要について

資料 3

■調査概要

調査対象	住民基本台帳（令和3年10月1日）に登録された18歳以上の男女
標本数	5,000人
抽出方法	人口構成比に配慮した無作為抽出
調査方法	郵送配付・郵送回収
調査期間	調査票発送：令和3年11月1日 調査票投函期限：令和3年11月22日（月） 集計対象：令和3年12月10日（金）到着分まで

回収数・回収率	2,444票（回収率48.9%）
有効回答数・有効回収率	2,443票（有効回収率48.9%）

【調査項目】 前回（平成29年度）の市民意識調査の内容を踏襲するとともに、今後特に市民意識の把握が必要とされる項目（健康状態、デジタル化等）を追加した。

- ① 全般的事項（市への愛着度、住み心地、健康状態、西東京市のイメージなど）
- ② 各施策分野における「現状に対する満足度」と「今後における重要度」
- ③ 子ども・子育て全般（満足度、「子どもにやさしいまち」になるために重要な取組）
- ④ 公共施設について（課題の認知度、今後の公共施設のあり方など）
- ⑤ 手続のデジタル化（オンライン化）について

【集計分析】 本調査では、設問ごとの単純集計のほか、属性項目及び設問選択肢と各設問クロス集計分析を行っている。



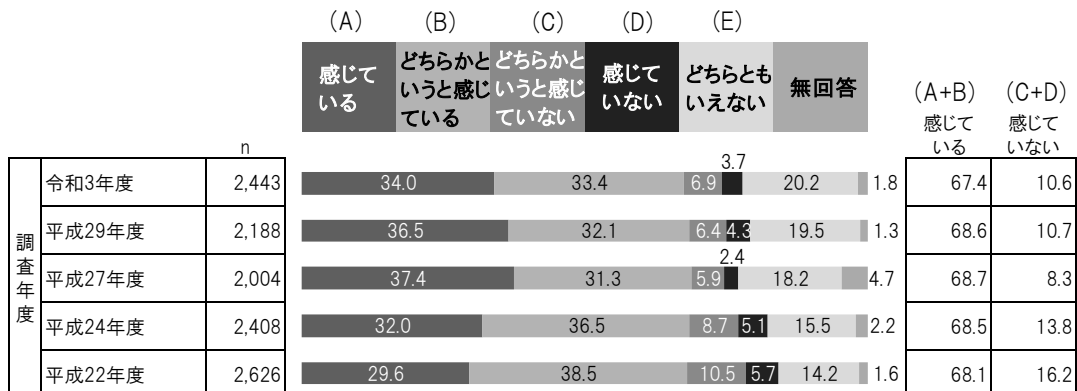
■ 特徴1 全般的事項

(1) 西東京市への愛着度

【報告書 p.13】

愛着を「感じている」、「どちらかというと感じている」の合計は67.4%であり、前回調査(H29)より1.2ポイント減少。愛着を「感じていない」、「どちらかというと感じていない」の合計は10.6%であり、前回調査(H29)より0.1ポイント減少。

年代別では、若い年代ほど『感じている(A+B)』の割合が低く、居住年数が長くなるにつれて『感じている(A+B)』の割合が高くなっている。

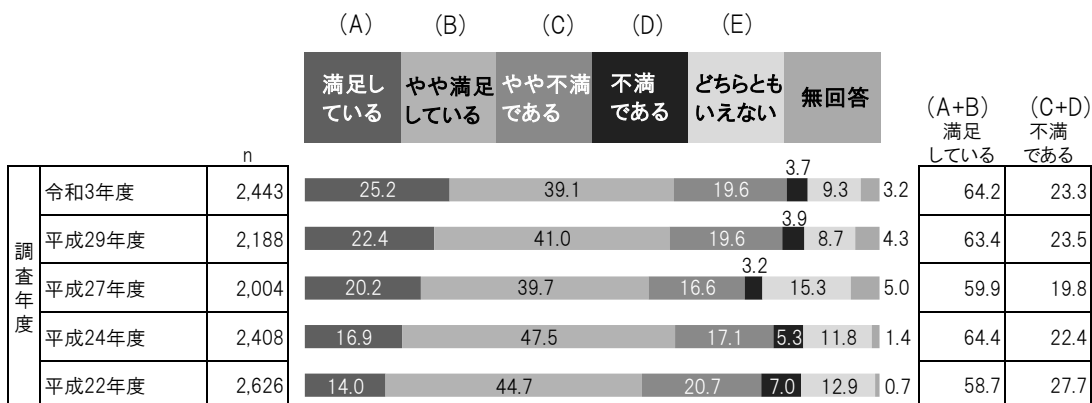


(2) 日ごろの住み心地

【報告書 p. 15】

日ごろの住み心地に「満足している」、「やや満足している」の合計は64.2%で、前回調査(H29)より0.8ポイント上昇。住み心地に「不満である」、「やや不満である」の合計は23.3%で、前回調査(H29)より0.2ポイント減少。

『満足している (A+B)』の割合は年々増加していて、市民の住み心地に対する満足度は上昇傾向にある。

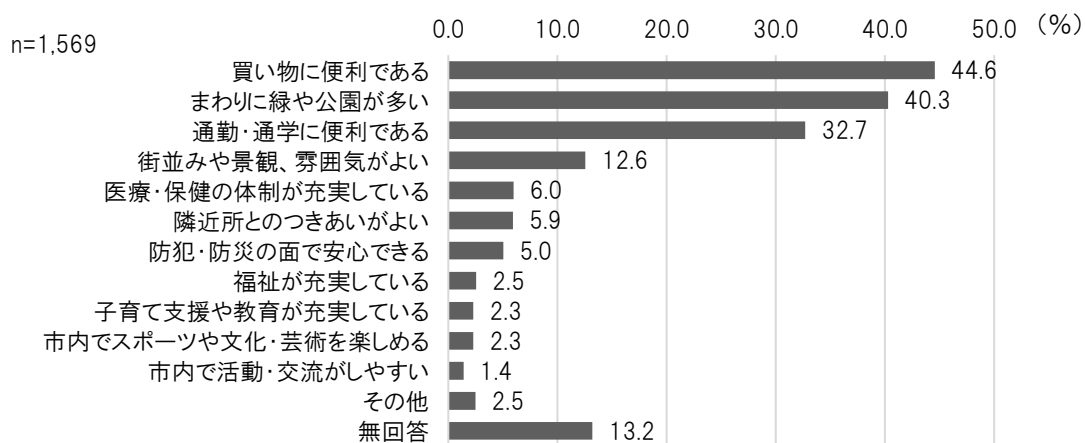


(3) 住み心地に満足している理由

【報告書 p. 17】

西東京市の日ごろの住み心地について、「満足している」「やや満足している」と回答した人の『満足している』の理由は、「買い物に便利である」が44.6%と最も多く、次いで、「まわりに緑や公園が多い」の40.3%、「通勤・通学に便利である」の32.7%となっている。

年代別では、30代及び40代は「まわりに緑や公園が多い」を選択する人が多く、その他の年代では「買い物に便利である」を選択する人が多い。

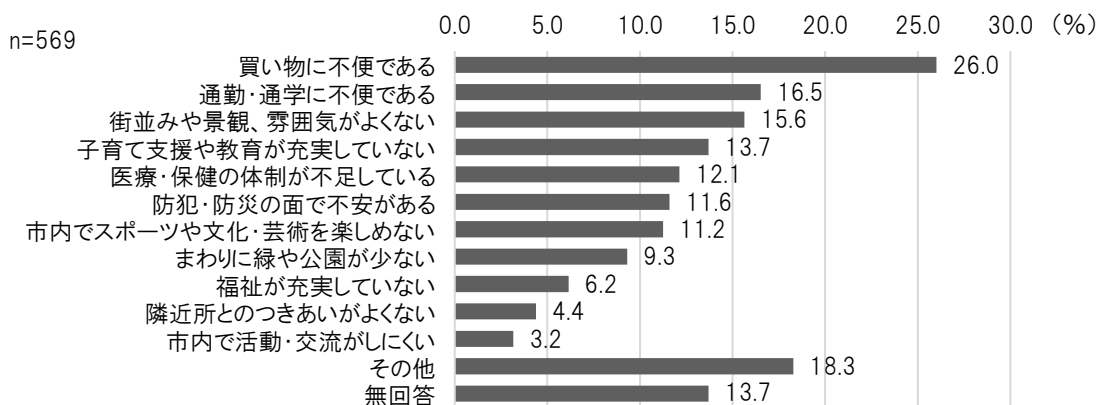


(4) 住み心地に不満である理由

【報告書 p. 18】

西東京市の日ごろの住み心地について、不満である理由は、「買い物に不便である」が 26.0%と最も多く、次いで、「通勤・通学に不便である」の 16.5%、「街並みや景観、雰囲気がよくない」の 15.6%。

年代別では、30 代では「子育て支援や教育が充実していない」が最も多い。



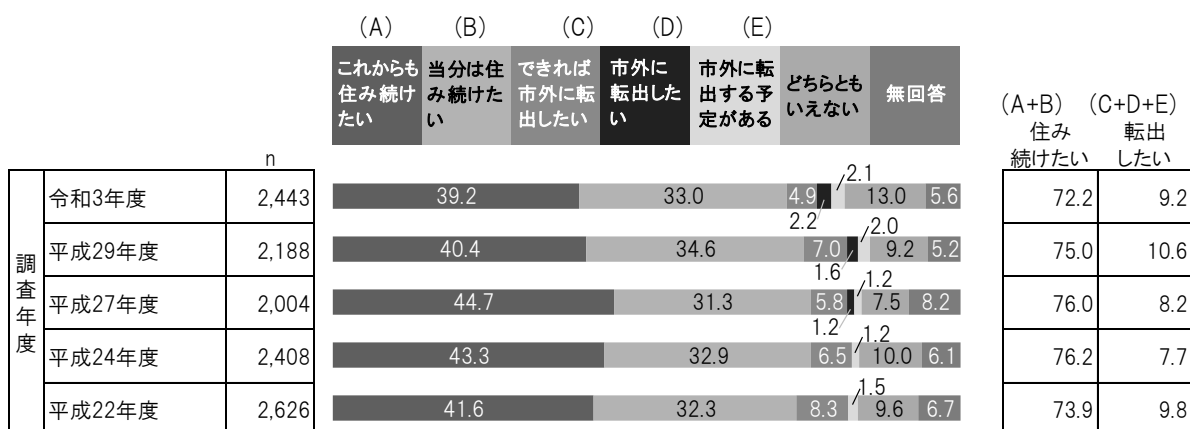
圏域別では、住み心地について、『満足している (A+B)』の割合が最も高いのは西部の 71.7%、『不満である (C+D)』の割合が最も高いのは北東部の 29.0%となっている。

(5) 継続居住意向

【報告書 p. 19】

「これからも住み続けたい」、「当分は住み続けたい」の合計は 72.2%で、前回調査 (H29) より 2.8 ポイント減少。一方、「できれば市外に転出したい」、「市外に転出したい」、「市外に転出する予定がある」の合計は 9.2%で、前回調査 (H29) より 1.4 ポイント減少。

住み続けたい理由では、「好き・満足」、「交通利便性」、「住み慣れている」のほか、「住宅事情」、「自然環境」、「買い物利便性」などが多く挙げられた。一方、転出希望理由では、通勤時間や駅までのアクセスなどの「交通利便性」、ゴミ袋、公共施設などの「行政サービス」、道路などの「都市環境」に関するものが多く、年代別では、若い年代ほど転出意向は高い傾向にある。



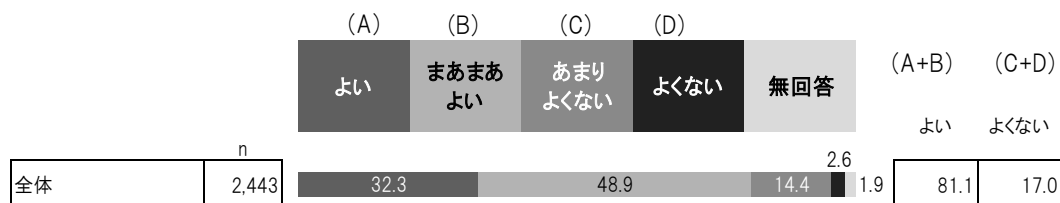
※「市外に転出したい」は平成 27 年度調査で新たに設定した項目

(6) 健康状態 ※新規設問

【報告書 p. 26】

健康状態が「よい」、「まあまあよい」の合計は81.1%で、「よくない」、「あまりよくない」の合計は17.0%。

年代別では、年代が高くなるにつれ『よくない (C+D)』の割合が高くなっている。また、世帯構成別では、単身世帯で『よくない (C+D)』が最も高い (24.4%)。



(7) 西東京市のイメージと暮らしたいまちのイメージ

【報告書 p. 27】

現在の西東京市のイメージは、「まちなかの自然 (公園、農地等) が豊かである」(58.0%)、が最も多く、「都心部に近く、交通・生活が便利である」(57.3%)、「買い物が便利である」(54.5%)となっている。「買い物が便利である」は前回調査 (H29) より12.8ポイント上昇。

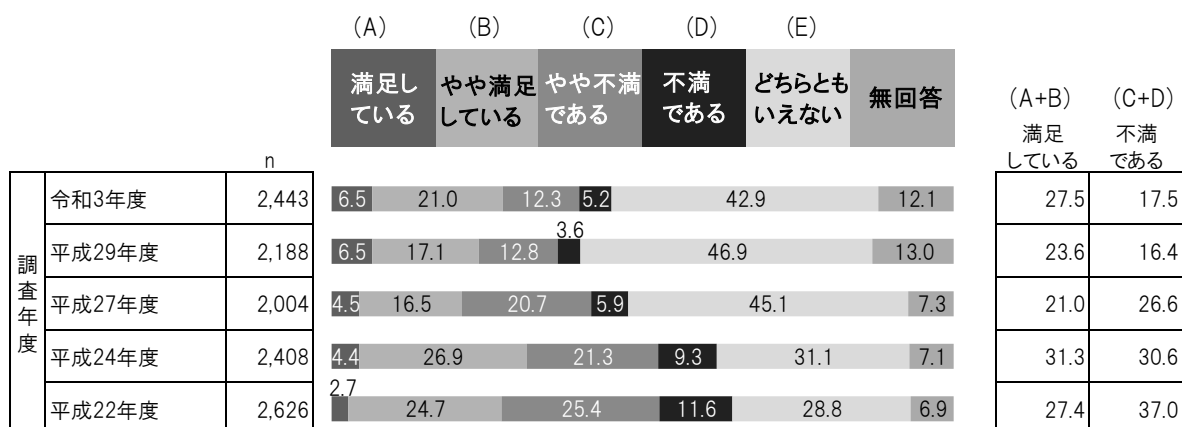
暮らしたいまちのイメージは、「安全・安心に暮らせる」(60.5%) が最も多く、「買い物が便利である」(54.0%)、「まちなかの自然 (公園、農地等) が豊かである」(48.6%)、「医療・福祉の環境が整っている」(46.5%)。「買い物が便利である」は前回調査 (H29) より9.1ポイント上昇。

(8) 市政全般への満足度

【報告書 p. 29】

市政全般に「満足している」、「やや満足している」の合計は27.5%で、前回調査 (H29) より3.9ポイント上昇。市政全般に「不満である」、「やや不満である」の合計は17.5%で、前回調査 (H29) より1.1ポイント上昇。

『満足している (A+B)』が平成27年度以降、徐々に高くなってきている一方で、『不満である (C+D)』の割合は、これまで最も低かった前回調査 (H29) より1.1ポイント増加している。



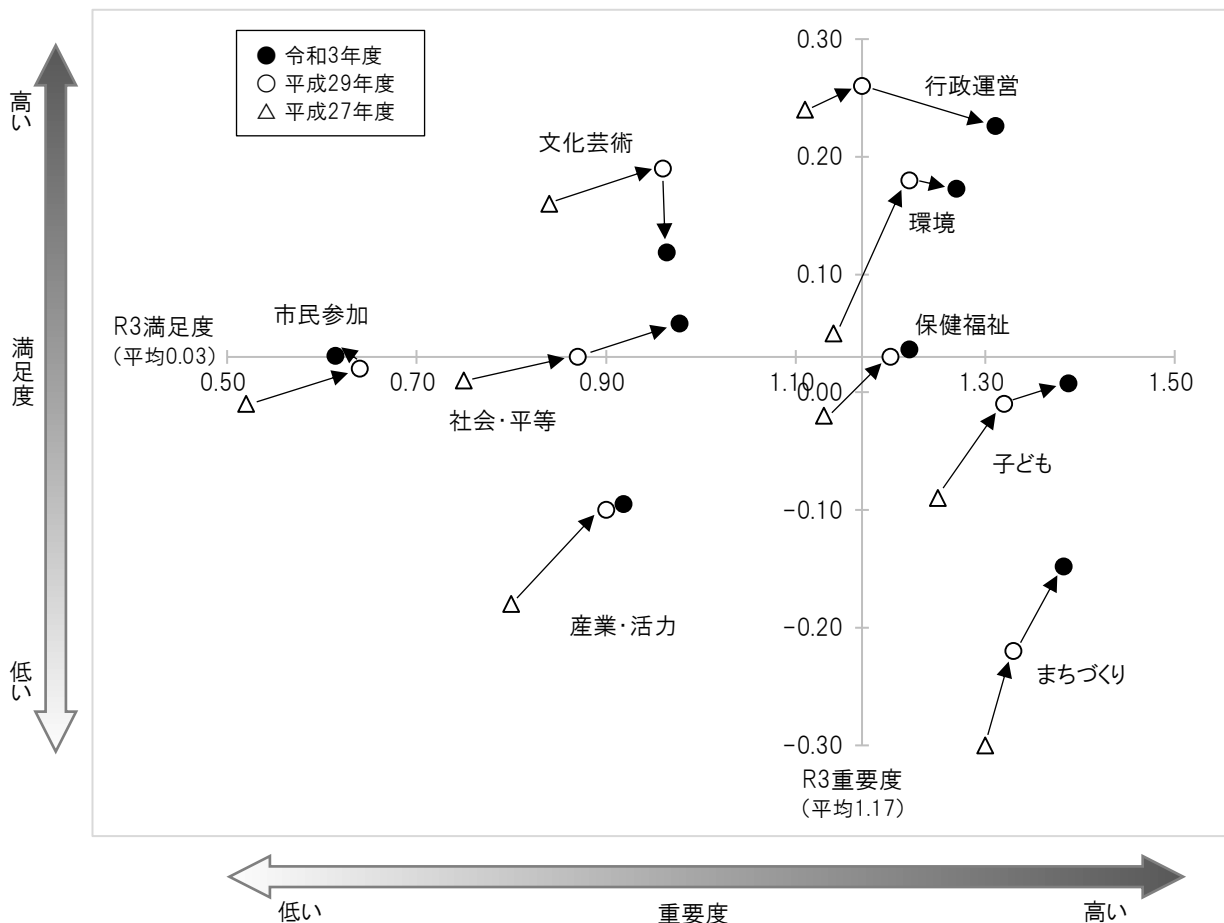
圏域別では、市政全般について『満足している (A+B)』の割合が最も高いのは西部の31.3%、最も低いのは中部の24.2%となっている。『不満である (C+D)』の割合が最も低いのは中部の15.7%、最も高いのは南部と北東部の18.2%となっている。

■特徴2 施策別の満足度・重要度

【報告書 p. 31】

分野別の満足度平均ポイントでは、「行政運営」の0.23で最も高く、次いで「環境」が0.17となっている。一方、平均ポイントがマイナスの分野は「産業・活力」の▲0.10、「まちづくり」の▲0.15ポイント。重要度平均ポイントでは、「子ども」が1.39で最も高く、次いで、「まちづくり」が1.38となっている。最も重要度が低い分野は「市民参加」で0.61、次いで「産業・活力」0.92となっている。

前回調査(H27・H29)と比べ満足度が上昇しているのは、『市民参加』、『社会・平等』、『子ども』、『保健福祉』、『まちづくり』、『産業・活力』の6分野、重要度が上昇しているのは、『社会・平等』、『行政運営』、『子ども』、『保健福祉』、『環境』、『まちづくり』、『産業・活力』の7分野で、満足度、重要度の両方とも続けて上昇しているのは、『社会・平等』、『子ども』、『保健福祉』、『まちづくり』の4分野となっている。

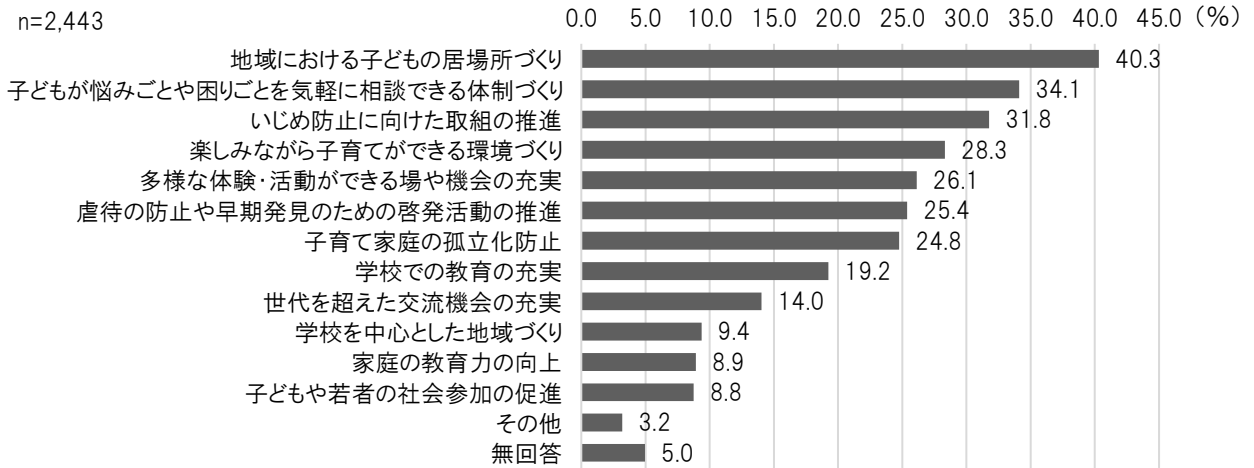


		令和3年度		平成29年度		平成27年度		前回調査との比較	
No.	項目	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
分野	1 市民参加	0.03	0.61	0.02	0.64	▲ 0.01	0.52	↗	↘
	2 社会・平等	0.06	0.98	0.03	0.87	0.01	0.75	↗	↗
	3 行政運営	0.23	1.31	0.26	1.17	0.24	1.11	↘	↗
	4 子ども	0.01	1.39	▲ 0.01	1.32	▲ 0.09	1.25	↗	↗
	5 文化芸術	0.12	0.96	0.19	0.96	0.16	0.84	↘	→
	6 保健福祉	0.04	1.22	0.03	1.20	▲ 0.02	1.13	↗	↗
	7 環境	0.17	1.27	0.18	1.22	0.05	1.14	↘	↗
	8 まちづくり	▲ 0.15	1.38	▲ 0.22	1.33	▲ 0.30	1.30	↗	↗
	9 産業・活力	▲ 0.10	0.92	▲ 0.10	0.90	▲ 0.18	0.80	→	↗

■特徴3 子どもにやさしいまちづくり

(1) 「子どもにやさしいまち」になるために重要な取組 ※新規設問 【報告書 p. 48】

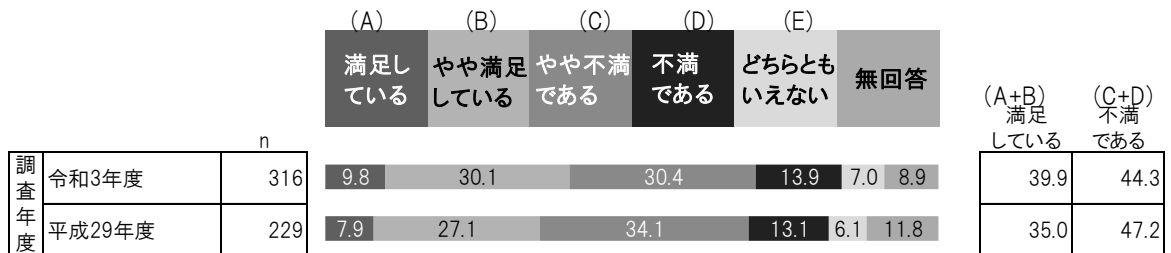
西東京市が「子どもにやさしいまち」になるために重要な今後の取組については、「地域における子どもの居場所づくり」が40.3%で最も多く、次いで、「子どもが悩みごとや困りごとを気軽に相談できる体制づくり」の34.1%、「いじめ防止に向けた取組の推進」の31.8%。



(2) 子育て全般への満足度 【未就学児のいる保護者のみ】 【報告書 p. 50】

子育て全般に「満足している」、「やや満足している」の合計は39.9%で、前回調査 (H29) より4.9ポイント上昇。

子育て全般に「不満である」、「やや不満である」の合計は44.3%で、前回調査 (H29) より2.9ポイント減少。



■特徴4 公共施設について

(1) 公共施設を取り巻く現状と課題の認知度 ※新規設問 【報告書 p. 55】

西東京市の公共施設を取り巻く現状や課題については、「知っている」が28.5%、「知らなかった」が64.6%で、年代別では、30歳未満で「知らなかった」の割合が高い。

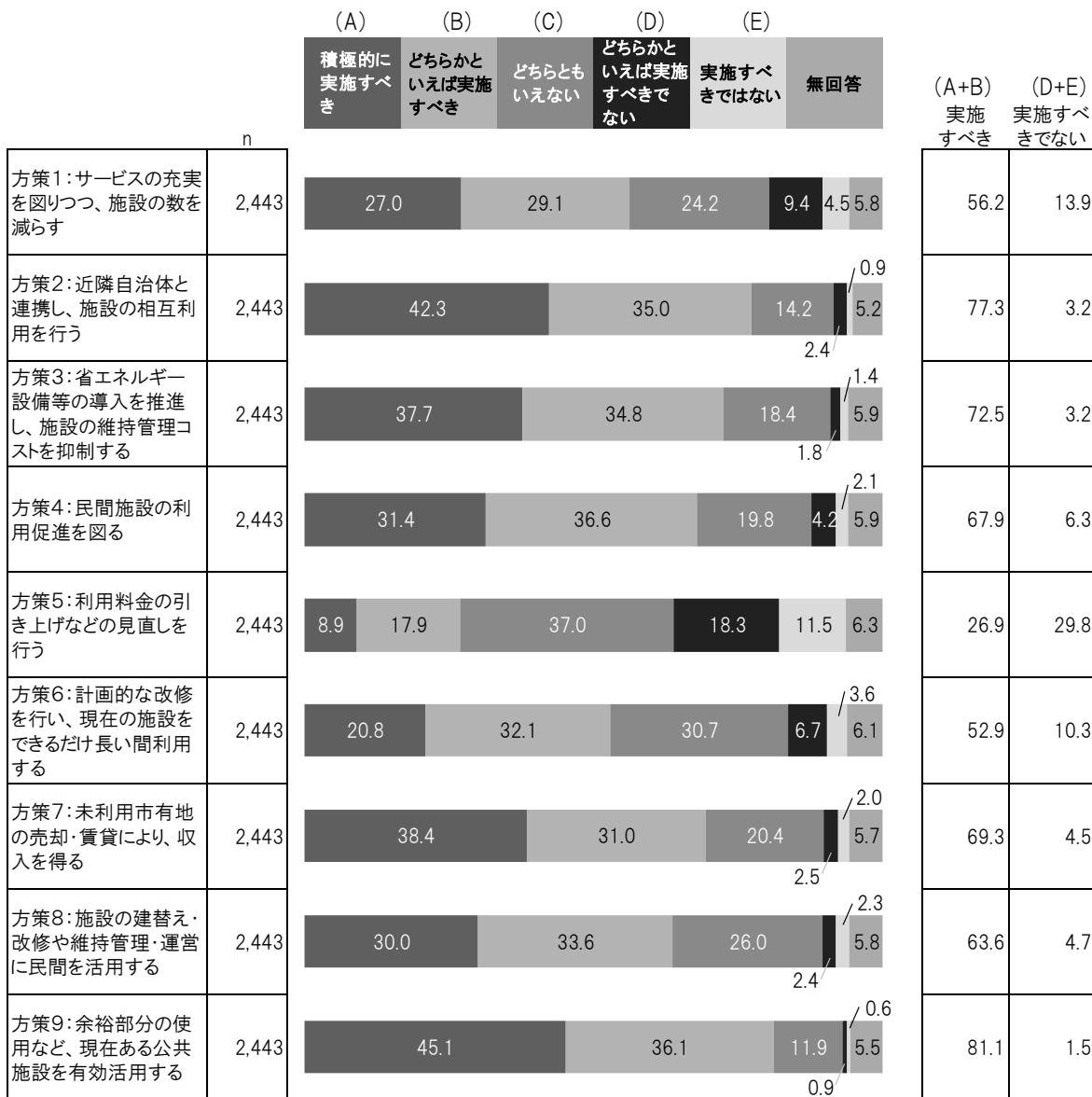


(2) 今後の公共施設のあり方

【報告書 p. 56】

公共施設に係る財政負担の軽減への対応として考えられる方策について、「積極的に実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」の合計が最も高い方策は、「方策9：余裕部分の使用など、現在ある公共施設を有効活用する」で81.1%。続いて、「方策2：近隣自治体と連携し、施設の相互利用を行う」が77.3%、「方策3：省エネルギー設備等の導入を推進し、施設の維持管理コストを抑制する」72.5%となっている。

なお、考えられる各方策の内、「方策5：利用料金の引き上げなどの見直しを行う」のみ『実施すべきでない (D+E)』が上回っている。



※一部、方策名を省略している。

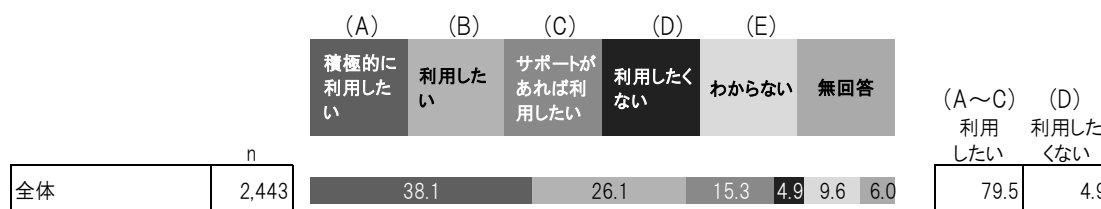
■特徴5 手続のデジタル化（オンライン化）について

（1）手続のオンライン化の意向 ※新規設問

【報告書 p. 82】

市役所の手続のオンライン化については、「積極的に利用したい」（38.1%）、「利用したい」（26.1%）、「サポートがあれば利用したい」（15.3%）の合計は79.5%。

年代別では、70歳以上を除く全ての年代で『利用したい（A～C）』の割合が75%を超えていて、70歳以上でも54.0%となっている。



（2）オンライン化を希望する手続 ※新規設問

【報告書 p. 83】

オンライン化を『利用したい（A～C）』と回答した人が希望する手続は、「住民票の写し等の交付請求」（63.3%）が最も多く、次いで、「粗大ごみ収集の申込」（43.4%）、「戸籍謄本・戸籍抄本等の交付請求」（38.4%）となっている。

